



新潟大学工学部G-DORM国際展開インターンシップin燕市プログラム概要

新潟大学工学部 G-DORMプロジェクト





公益社団法人つばめいと



1. 新潟大学について



自律と創生を理念とし、日本海側ラインの中心の新潟に位置する 大規模総合大学として、環東アジア地域を基点に世界を見据え、 教育と研究及び社会貢献を通じて、世界の平和と発展に寄与する。

10学部,5大学院研究科,脳研究所,災害·復興科学研究所,医歯学総合病院に加え,環東アジア研究センター,佐渡自然共生科学センター,日本酒学センター等を新設し,社会に開かれた学際的研究環境の創成を推進。



工学部は、工学科9主専攻プログラムと工学力教育センターを有し、 基礎及び専門教育に加え、1年次から参加可能な実践的課題解決型で 融合分野的なものづくり、研究、国際交流等の活動も実施。

> 学ぶ力と創る力を統合した幅広い**工学力**を備え, **国際理解**に基づいた**課題解決力**を有する人材の養成



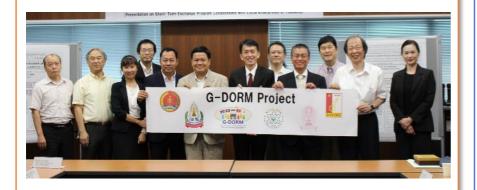


2. G-DORM事業と連携団体の(公社)つばめいと



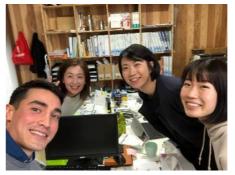
新潟大学工学部G-DORM事業

- ・ メコン諸国大学と連携し、地域協働・ドミトリー型融合教育を実施
- 地域創生課題解決能力と、 融合的視点をもつ理工系 グローバルリーダー育成



公益社団法人つばめいと

- インターンシップなどの 学生・事業者交流により、 燕市の就労・産業を振興
- インターン生受入のための 宿泊機能付きの研修施設 「つばめ産学協創スクエア」







地域社会の発展と人材育成のため相互協力 (燕市と新潟大学との包括連携協定)



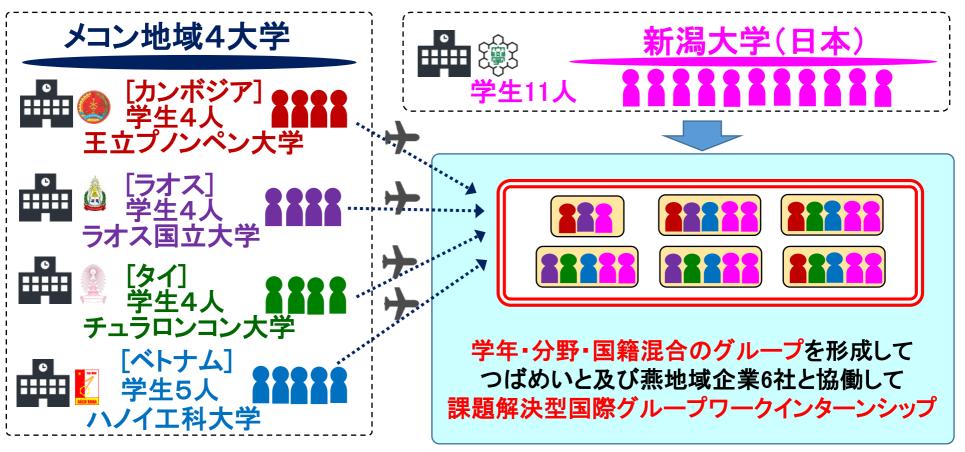




3. プログラム概要



- 開催時期は,2019年8月21日~8月30日(土日除き計8日)
- 参加学生は、留学生・新潟大学生併せて計28名
- 理工系学部対象,1年生から参加,単位認定型プログラム







4. プログラム内容①



インターンシップ実施の背景

人口減少による国内市場縮小や,アジア諸国の低賃金な労働力などから,**日本の理工系地域企業においてもグローバルな視点から課題を発見・解決できる人材が必要**とされている。



インターンシップ実施の目的

- 新潟の地域企業がグローバル化の流れの中で、どのようにして成長・高度化し、国際展開を図っていったのかというプロセスについて、企業訪問により直接的に体験しながら学ぶこと。
- メコン諸国の学生とのグループワークを通して、国により 異なる課題やニーズについて把握し、その課題の解決策や 地域・産業創生についてリアリティをもって学ぶこと。
- ・ メコン諸国からの学生との交流により、異文化理解や国際協調性や英語コミュニケーション能力が向上すること。





4. プログラム内容②



2019年度のインターンシップ実施の経緯①

燕市の産業技術の強みと課題

世界でも有名な燕市の熟練の金属加工技術は、高度な先端技術に受け継がれ、常に進化を続けている。

しかし、業務プロセスに**IT関連の先端技術導入**に取組む企業が 少ない、職人技への依存度が高く**作業の標準化や後継者育成**が 進んでいない、といった課題に直面している。



2018年度のインターンシップで取組んだ課題解決提案と成果

「人材不足の解消」に関する課題解決をテーマに取組んだ結果, 学生から<u>「IT活用の推進」に関する提案</u>を受ける。





4. プログラム内容③



2019年度のインターンシップ実施の経緯②

2019年度に燕市IoT推進ラボ始動 ものづくり企業の生産性向上や, 技術高度化を図るため, IoT導入 の推進に取り組む



前年度のインターンシップ成果 学生からIT活用の推進に関する アイデアが市内企業のIoT推進に 生かされる



2019年度に学生に与えられた課題解決提案ミッションは,

- 国際展開インターンシップを通して、燕産業・企業の発展の経緯や現状について、海外との関係性(国際展開や国際競争など)を踏まえて理解するとともに、将来の持続可能な発展に向けた課題とその解決策について提案すること。
- 特に、IT化推進の観点から、課題解決の提案を行うこと。





4. プログラム内容④

真の強さを学ぶ。 **新潟大學**NIIGATA UNIVERSITY

事前学習

- インターンシップ内容やインターン シップ先企業について理解を深める。
- **社会人基礎力を基に目標設定**を行う。
- 電子書籍を活用した英語学習を行う。



(1)燕市訪問前の活動

- ・ 目的・目標、スケジュールを理解する。
- グループのチームビルディングを行う。
- 企業の実課題の解決策について仮説解を立て、企業への質問事項を考える、 グループワークを行う。











4. プログラム内容(5)

(2)燕市訪問時の活動

現場体験を取入れ、 実課題の解決提案へ

(全体活動)

・ 燕産業の過去から現在、及びIT推進の ビジョンを学習する。



(グループ活動)

- 各企業でのインターンシップにより、 燕企業の保有する**産業技術について、** 実践的に学ぶ。また当該企業が抱える 特定の課題について解決策を提案する。
- IT化推進の観点も考慮して, 燕産業・ 企業の**将来の持続可能な発展に向けた 提案**を行う。













4. プログラム内容⑥



(3)大学での発表及び事後学習

- 活動の成果を取りまとめ、フォーラム (最終発表会)でグループ発表をする。
- 一連の活動を振り返り、自身の学びと それを今後どう生かしたかを考える。

大学での発表は, 英語プレゼンテーション 発表**15**分,質疑応答**5**分

企業の方々、 メコン諸国の 大学の先生も 参加しました





5. 企業の社員の方々との交流について

真の強さを学ぶ。 **新潟大學** NIIGATA UNIVERSITY

企業での活動時

企業での活動を通して、社員と交流。活動への助言や、仕事のリアルな話が 聞ける。

燕市役所及び市内企業との交流会

市長はじめ燕市,市内企業,大学等との交流会をつばめいとが主催。懇親を 深める。

つばめいと施設での交流・縁日参加

- 滞在先はつばめいとが運営するゲスト ハウス。活動の相談・助言が得られる。
- 2019年の活動では施設前の縁日に出店 する**企業・地元の方と文化交流**が実現。











6. 学生へのフィードバック手法

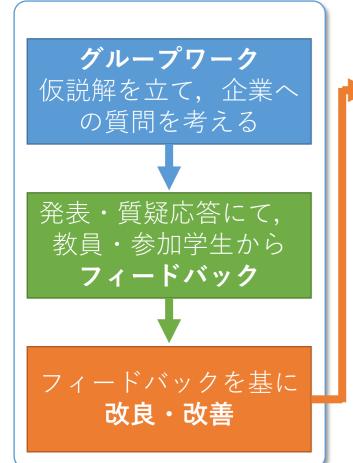


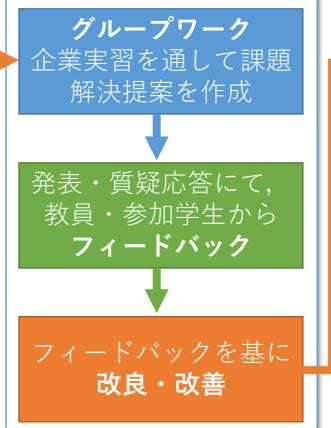
発表とフィードバックの繰り返しで知識定着 一仕事理解を促す工夫!

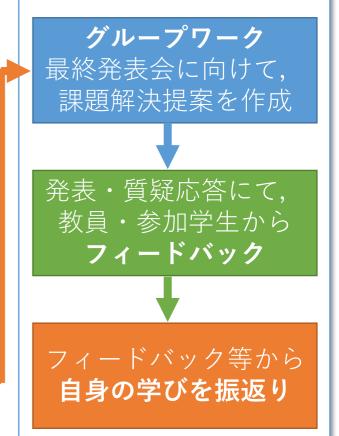
(1)燕市訪問前の活動

(2)燕市訪問時の活動

(3)大学での発表・事後学習











7. 想定した教育的効果、その測定手法



学生の自己評価による学びの効果測定

(学生の事前事後の能力自己評価)

- 社会人基礎力のコンピテンシー
- グローバルコンピテンシー

プログラム評価の観点での効果測定

(学生への事後評価アンケート)

- プログラムの総合評価
- 良かった点・悪かった点
- 燕市の産業に対する関心の高まり
- 今後の改善提案

大学と企業の振返り 意見交換会

効果測定結果を踏まえ プログラム改善について 受入れ企業からの フィードバックを得る



次年度の改善へ!





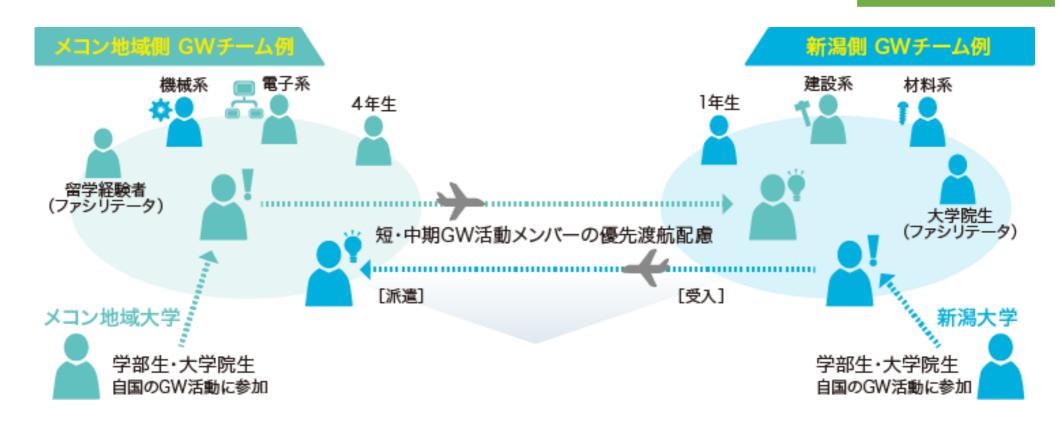
8. 学びとフレンドシップの深化へ



段階的に高度なプログラム・役割へステップアップの機会

- 受入から派遣、また短期から中期、長期のプログラムへ
- 経験者がファシリテーターとして活動サポート

国境を越えた 友情を育む





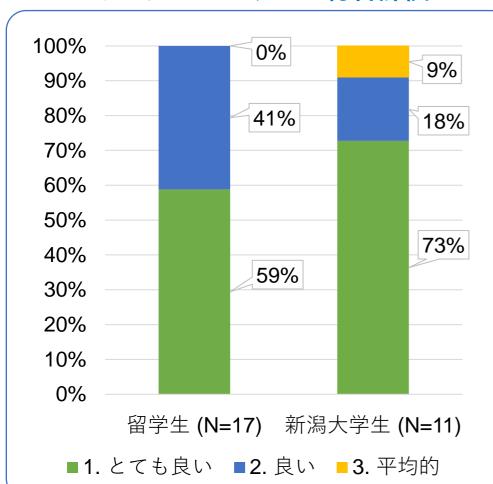


9. 参加学生の声①

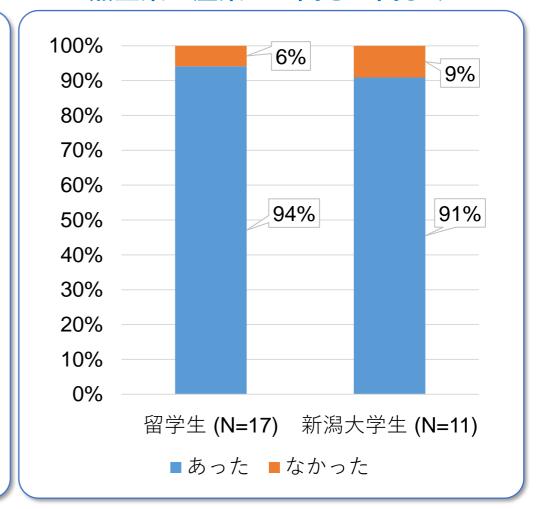


新潟大学生・留学生ともに満足度は高く、企業への関心も高まる

インターンシップの総合評価



燕企業・産業への関心の高まり







9. 参加学生の声②

課題を解決するために 目標を設定し、筋道を 立て物事を進めていく 能力も身についた。





新潟の企業の問題とメコン 諸国の企業が抱えている 問題は同じではないことを, 改めて実感した。

企業の技術をどう活かすか, どう協力してより良い商品を 作り上げていくのかを様々な 観点から考える力を養えた。



とても楽しい。インターンシップでは 貴重な体験を通して自分の将来の "働く"ということを考えたり、 燕企業の凄さを感じることができた。

自分の長所は何か、他メンバーの 長所を生かすにはどうすれば良いか を考え、自分の最善の立ち回りを 考える必要があることを学んだ。









さらに詳しい情報は・



新潟大学工学部G-DORM事業

Homepage



公益社団法人つばめいと

Homepage



Facebook





